

キャンプを体験した子どもの感謝の気持ちに関する研究
 ～人とのつながりと自然とのつながりに着目して～
 水津 真委 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)
 指導教員 林 綾子

キーワード：キャンプ体験 人とのつながり 自然とのつながり 感謝の気持ち

1. 緒言

今日の子どもたちの生活体験、社会体験、自然体験は大変貧弱なものとなっており、ゆとりのない生活の中では体験から学ぶ機会は、ますます減少しているのが現状であると生涯学習審議会¹⁾は報告している。このことは、豊かな心の育成に影響を与えており、現代の子どもは、相手を思いやり、感謝・謝罪する気持ちがなくなっていると言われてきている。これは、“人とのつながり”や“自然とのつながり”といった関係が希薄化していることが原因と考えられている。子どもたちの望ましい人格形成を図るためには、感謝する・感謝される喜びを体験することが重要であると高橋²⁾はいう。キャンプ体験は、人や自然と密接に関わるものであり、そのようなつながりを体験できることから、感謝の気持ちを育むことのできる場ではないかと期待できる。そこで本研究では、子どもたちがキャンプを体験することで、どのような感謝の気持ちを感じた体験をし、それらの体験は子どもたちにとってどのような意味があるのかを明らかにすること、また、人とのつながりや自然とのつながりが子どもの感謝の気持ちとどのように関係しているかを明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

本研究においては、心理的エスノグラフィー³⁾の技法により、多角的にデータを収集し分析した。

被験者は、平成22年8月7日から8月9日の2泊3日に本大学の研究室主催で行われた、「2010サマーキャンプ 集まれ！！友達いっぱい～一人ひとりが主人公～キャンプ」に参加した、大阪在住のOスポーツアカデミーの小・中学生(小学生：男1、女：5、中学生：女1、計7)である。このキャンプではより人と自然とのつながりを重視するため、スタッフを含めた全15人での1つのコミュニティ形成を目指し、多くの自然体験活動を取り入れて実施した。調査は参加者・保護者へのアンケート、スタッフによる観察、記述、聞き取り調査を行い、質的研究方法の一つであるグラウンデッド・セオリー・アプローチを参考に分析を行った。

3. 結果と考察

本研究のキャンプにおける、人や自然とのつな

がり体験と子どもの感謝の気持ちに関する結果を概念図としてまとめた(図1)。キャンプでの人や自然とのつながり体験を通して、子どもたちは多くの気付きや学びがあり、成長が見られた。これらの直接体験から、子どもたちのキャンプでの学びとして、自己の学びや他者の存在、自然の存在、感謝の気持ちといった、人や自然とのつながりを理解することができた。このことは自分のためにしてもらったということや、自分が受けている恩恵やプロセスを理解したことから、子どもの素直な「ありがとう」を生んだということがわかった。

また、観察調査によって、子どもが感謝の気持ちを持ったり、伝えたりした時の状況を、類似する事例ごとに分類し、子どもたちの感謝の気持ちを5段階の「感謝度合」とし、示した。この「感謝度合」が高くなるにつれて、感謝の気持ちを素直に感じ、伝えることができるといった体験の理解がうかがえた。さらに、子どもたちが素直な感謝の気持ちを伝えることで、より人とのつながりも強くなり、特に保護者にも、子どもたちの成長を理解してもらえたことから、子どもの感謝の気持ちを伝えることの大切さが明らかになった。

4. まとめ

キャンプにおいては、多くの子どもが普段の生活で教えられている人に感謝する必要性について、その意味を理解できる体験を与えられることがわかった。また、そのような体験は日常生活での家族や、日頃あまり意識しない自然に対する感謝の気持ちへとつながっていることもうかがえ、人や自然との強いつながり体験が子どもの豊かな心を育む上で、重要であることが示唆された。今後、さらにキャンプを通じた子どもたちの豊かな心の育成に取り組むには、感謝の気持ち以外にも感動体験や謝罪する気持ちを持った体験など幅広く検討する必要があると考える。

5. 引用文献

- 1) 生涯学習審議会(1999).「生活体験・自然体験が日本の子どもの心をはぐくむ管甲」.
- 2) 高橋宏明(2004). 児童心理「ありがとう」「ごめんなさい」が言える子. 金子書房
- 3) 柴山真琴(2006). 子どもエスノグラフィー入門―技法の基礎から活用まで―. 新曜社

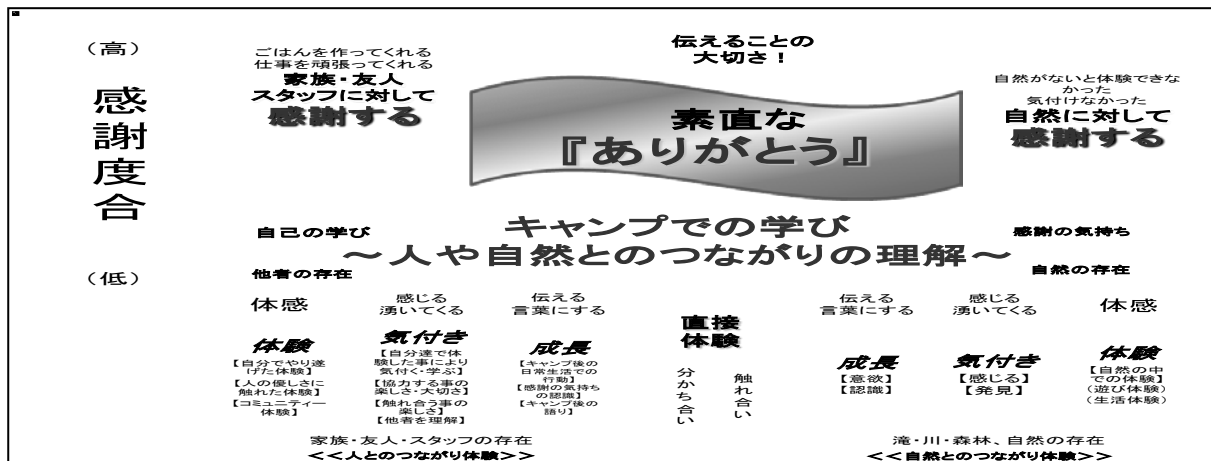


図1 人と自然とのつながり体験と感謝の気持ちの関係についての概念図